

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第 038 号

2017 年 7 月 20 日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

小倉大会長、地元で精力的に 全国の集いへのアピール

—連続してプレ大会開催—

6月11日、7月2日の2回にわたりプレ大会が開催されました。2月、4月に引き続き地元での開催です。毎年プレ大会は別の地域で開催されていましたが、今年は開催地の八戸を中心に行われております。

今回の大会のテーマ『かだるべし！ 創るべし！ 地域の暮らし 日本の未来』を地元伝えるべく今回で4回目を迎えた地元でのプレ大会。大会長としての声掛けだけでなく、それぞれに講演、シンポジスト、座長など自ら様々な役割をこなしながらすべてのプレ大会に関われ、地元の様々な団体の方々に全国大会の意義を訴えられたことは過去にも例がありません。

前号でも紹介させて頂きましたが、第3回、第4回のプレ大会を含め改めて紹介させて頂きます。

第1回 2月4日

場所：八戸グランドホテル
母体：地域医療・介護連携ネットワーク
『connect 8』報告会



第2回 4月8日

場所：(株)吉田産業本社ビル 6階第1会議室
母体：『八戸自由大学』主催による第100回
記念シンポジウム

第一部 講演 ～誰もが自分らしく暮らせる
まちづくりを目指して～

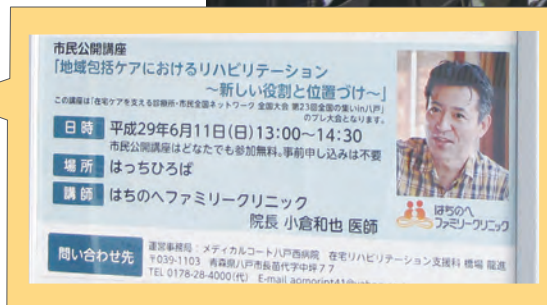
第二部 パネルディスカッション



第3回 6月11日

場所：はっち広場

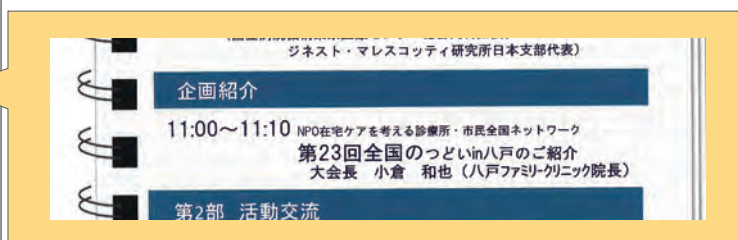
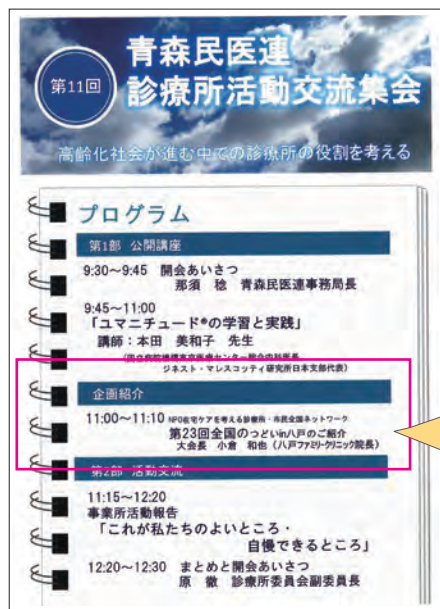
母体：第41回青森県理学療法士学会



第4回 7月2日

場所：青森県総合社会教育センター

母体：第11回青森民医連診療所活動交流会



オレンジカフェ

同日の夕方から同会場にて市民参加の『オレンジカフェ』が開催されました。開催の主催は「医療法人すみれ会グループホーム舟見町」の松尾良子氏で松尾様は今回の八戸大会の実行委員をされております。プレ大会としてではありませんでしたが、ここでも小倉大会長がお話をされました。



八戸地域の方々へ

この P3、P4 に関しては小倉大会長の了解を得て八戸市を中心とした開催地においてプレ大会に関わられた方々への配布を目的とした内容になっております。会員の皆様にとっては既に配布済みの「演題募集要項」の内容とほぼ同じ内容となっておりますが、シンポジウム等は最新情報となっておりますので改めてご確認下さい。

大会 1 日目・2 日目 シンポジウム

基調講演

「地域共生社会を目指して」

菅原 健介 (株式会社ぐるんとぴー)

【各種シンポジウムの主な内容】

「多職種と市民で作る共生のまち」

市原 利晃 (医療法人社団隆仁会 秋田往診クリニック)
平間 恵美 (特定非営利活動法人 はちのへ未来ネット)

「穏やかな最期を迎えるために、老衰へどこまで医療が介入するべきか」

石飛 幸三 (社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団
世田谷区立特別養護老人ホーム芦花ホーム)

「食で支える共生社会」

五十嵐 祐紀子 (料理研究家)
高橋 瑞保 (山形県立新庄病院)
なぎさ なおこ (フードクリニック ナギサカフェ)

「台湾と日本の在宅医療」

余 尚儒 (台湾在宅医療学会)
新田 國夫 (医療法人社団 つくし会新田クリニック)

「在宅緩和ケアと栄養管理(仮)」

東口 高志 (学校法人藤田学園 藤田保健衛生大学医学部
外科・緩和医療学講座)
西山 弘文 (財団医療法人謙昌会 総合リハビリ美保野病院)

「認知症対策と教育システム」

遠藤 英俊 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)
深澤 隆 (医療法人財団青仁会 青南病院)

「在宅医療と教育」

雨森 正記 (医療法人社団 弓削メディカルクリニック)
和田 忠志 (医療法人社団 実幸会いらはら診療所)

「地域包括ケア実現のためにいま私たちがすべきこと」

大石 佳能子 (株式会社メディヴァ)

「高齢者虐待防止」

池田 直樹 (高齢者虐待防止学会)

「在宅リハビリテーション栄養」

若林 秀隆 (公立大学法人横浜市立大学付属市民総合医療センター)
石亀 昌幸 (公益財団法人シルバーリハビリテーション協会
メディカルコート八戸西病院)

「病院と地域包括」

千田 一嘉 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)
太田 秀樹 (医療法人アスミス)
今 明秀 (八戸市立市民病院)

「認知症と社会参加」

丹野 智文 (おれんじドア)
山崎 英樹 (清山会医療福祉グループ いずみの杜診療所)
若生 栄子 (公益社団法人認知症の人と家族の会)
大澤 誠 (医療法人あづま会)

「スポーツをする女子中高生の健康管理」

能瀬 さやか (東京大学附属病院産婦人科)

「地域包括ケア実現にむけて」

桑原 由次 (在宅ケア全国ネット理事)
小倉 和也 (はちのへファミリークリニック)

「地域連携で取り組む摂食・嚥下」

一瀬 浩隆 (NPOから食べる幸せを守る会)
宮川 聡文 (医療法人あおもりデンタルケア)

「子どもと楽しむ回想法」

小倉 学 (八戸クリニック街かどミュージアム)

八戸地域の方々へ

大会1日目 午後 実践交流会

『実践交流会』は20年以上も続いている当会の大きな特徴で、医療・介護・福祉に関する多職種の会員による実践例が10のカテゴリーに分かれ全部で100近い発表が行われます。その中には必ず皆様にとって「知りたい情報」が必ず見つかると思います。

当会の理事と地元で選出頂いた方の2名が座長を務めさせて頂き進行させて頂きます。

地元の皆様にとって『実践交流会』での情報交流が今後の活動に生かされると確信しております。ご参加をお待ちしております。



1. 在宅生活の継続

座長 石田 一美
秋櫻醫院
井岡 真基
公益財団法人シルバーリハビリテー
ション協会シルバークリニック 院長

6. 口腔ケアと栄養管理

座長 大川 延也
大川歯科医院
伊藤 恵美子
公益社団法人 青森県栄養士会
理事

2. 訪問サービス&通所サービス

座長 岡崎 和佳子
有限会社 菜の花
池田 右文
株式会社池田介護研究所
代表取締役

7. これからの地域包括ケア

座長 長 純一
石巻市立病院仮診療所
原 徹
八戸医療生活協同組合
八戸生協診療所 所長

3. 緩和ケアと看取り

座長 中嶋 啓子
医療法人啓友会
山名 保則
医療法人仁泉会
八戸在宅クリニック院長

8. 新しい試み

座長 吉永 隆行
(株)キャナル・コンピューター・プリント
下沢 貴之
高齢者のトータルサポート
かっこうの森 代表

4. 人材育成・教育

座長 長縄 伸幸
医療法人フェニックス
沢田 章
社会福祉法人同伸会

9. 薬と生活

座長 金井 秀樹
やまと調剤薬局
飯田 正彦
一般社団法人 八戸薬剤師会
副会長

5. 地域で支える認知症ケア

座長 村山 善紀
村山内科
石戸 育子
公益社団法人 認知症の人と家族の会
青森県支部 代表

10. 障がい者・障がい児ケアについて

座長 畑 恒土
医療法人あいち診療会
深澤 隆
医療法人財団青仁会 青南病院
病院長



私の こだわり『職場づくりは人づくり』

かっこうの森総合施設長
下沢 貴之



「下沢様はデイサービスとスポーツジムの組み合わせた『ライフジム』という取り組みをはじめ、日本財団のソーシャルイノベーターに選ばれ全国的に注目されている方です。」（小倉はちのへ大会長より）



森カフェ

私は、介護事業所を運営しているが、意図的な職場づくりをすることにこだわりがある。

福祉の職場は、どことなく自己犠牲や奉仕のニュアンスを含んでいるので、報酬を得る行為とこれを明確にすることが特に大切なことであり、そうでなければ長く勤めることはできない。例えば、弊社には長期休暇制度が年2回あるが、実は介護の職場でこれを取り入れている事業者はほとんどない。入所施設には長期休暇は不要という暗黙の了解があるようだ。しかし、利用者と職員のうち、利用者だけを大事にすることはアンフェアなことで、職員を大事にすることと利用者を大事にすることは同じと考えたほうが良い。実施して数年経つが、休むことは気まずく同僚に迷惑をかける行為ではなく、ポジティブな事という共通認識が広がった。また、体にも心にもゆとりが出来、ゆっくりと介護ができるので、忙しい現実と理想にギャップを感じて仕事を辞めることもなくなっている。

次に大切なことは、職種や資格の垣根をなくすことである。医療職は特にその専門性にプライドが高いので他資格や他部署への批判的姿勢をとることがある。これがなくなると互いの状況や大変さを共有出来るようになり、非常にいい関係性が保てるようになる。そのため、社員食堂では無料チケットを配布したりプロ野球選手名鑑のごとく？スタッフ名鑑を作成したり、相互理解の場を意図的に作っている。それにより、不要なストレスが無くなっていく。

そして、3つ目に大切なことは、厳しく社会の常識を教えることである。これは企業としての役割と考えている。長期休暇制度や社員食堂の無料開放等、働きやすい環境をつくることと厳しく指導することは両輪である。弊社の管理職にはそのための行動指針のようなものがあり、それにより、直接的な介護の仕事や相談業務等、人を支援する立場の仕事にも役立っている。

仕事には、大変なことや苦勞を乗り越えたことが価値とされるイメージがあるが、そうではなく、正確な知識と適切な技術を身に着けることが本来の姿であり、そして、職場が楽しければ、なお人生は楽しいものになるだろう。

今回、「私のこだわり」というテーマで原稿を依頼されたが、仕事におけるこだわりとはその人の持つ専門性と同じ意味なのだと感じた。半面、遊ぶことにおいては、こだわりは不要で、誰とでも何にでも楽しく遊べるような大人になりたいなあ…などと考えた。（もう44歳ですが…永遠のテーマです。）

株式会社リブライズ

2000年、介護保険制度がわが国でも導入され、この業界はそれまでの福祉制度から大きな変化を遂げました。その中のひとつに『民間参入』があります。これまで、介護施設を運営できるのは行政や社会福祉法人でしたが、これにより異業種からの参入や介護現場にいる個人での起業が大きく増えました。

株式会社リブライズ（Librise）もそんな一介護職員が設立した会社です。

社名は、Liberty（＝自由）のLibとrise up（＝立ち上げ）のriseから取った造語です。「あらゆる制限をなくし自由な空間を作りたい」という利用者さんの日常への思いと「介護に携わる人たちにこそ起業してほしい」という現場ではたらく人々への思いです。これが出来れば、この業界はもっと良くなります。

それは、利用者にとってもはたらく社員にとっても「もっと良くなる」ことです。株式会社リブライズのミッションは、普遍的なものを大切にしながらも介護業界で新たな価値を作ることです。（ホームページより）

リレー寄稿

秋山理事 プロフィール

昭和 42 年より世田谷区役所勤務。平成 27 年世田谷区副区長退任まで社会福祉、高齢対策、保険福祉、在宅サービス事業など行政業務に関わられました。

現在は当会の理事を始め、株式会社ティシーケイサービス取締役、特定非営利活動法人日本地域福祉研究所主任研究員、一般財団法人社会福祉研究所研究員をはじめ、色々な分野で活躍をされています。



「地域包括ケア…地域の現状 ③」 —東京都世田谷区—

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
理事 秋山由美子



世田谷区の地域包括ケアの取り組み

世田谷区の概要

世田谷区は東京 23 区の西南端にあり、都心に近く交通の便が良い良好な住宅地で面積 58.08km²、平成 29 年 5 月の総人口は約 898,000 人、世帯数約 472,300 世帯、高齢化率 20.17%、要介護認定率 20.68% (平成 29 年 1 月) で要介護認定率が全国平均を上回っています。

はじめに

世田谷区では住み慣れた地域で、支え合い、自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、24 時間 365 日対応型の高齢者安心コール事業や定期巡回・随時対応型訪問介護・看護、小規模多機能型居宅介護などの充実に取り組んできました。その中で区民の困りごとにいち早く対応し、早期に支援につなげていくためには、身近な地区で気軽に相談できる場所の必要性を感じ、相談体制の充実に取り組みました。

相談体制の充実

平成 28 年 7 月から行政のまちづくりセンターにあんしんすこやかセンター (地域包括支援センター)、地区社会福祉協議会が入り三者が一体となって区内 27 地区に福祉の相談窓口を作り相談体制の充実を図りました。

区民はどこに相談して良いか迷っているという自分で問題を抱え込んでしまい地域住民や行政の目配りなどができにくくなってしまいます。

この相談窓口は高齢者だけではなく障害のある方、子育て家庭、生きづらさを抱えた若者、生活困窮者など誰でも、区民の困りごとの相談に応じています。区民は困りごとがあれば身近な地区の拠点であるまちづくりセンターに出向けばそこにあんしんすこやかセンター、地区社会福祉協議会が入っていて何でも相談できる体制が整いました。

地域で自立した生活を送るために支援を必要としている人々は高齢者ばかりではありません。複雑な問題を抱えながら、何をどう相談したら良いか戸惑っている人たちもいます。これまでは分野ごとの縦割りで相談やサービスの提供を行ってきましたが、相談者を分野ごとにたらい回しさせるような縦割り行政ではなく誰もが身近なところで気軽に安心して総合的に相談できる体制を目指しました。

しかし、実現までには様々な苦労がありました。あんしんすこやかセンター職員からは対象者の拡大は自分たちの力量を超えることになるのではないかと不安の声があった一方で、高齢者の親と引きこもりの若者の世帯など、家族の問題として対応していかないと、高齢者だけの相談では課題を解決できないと感じていた職員もいました。

まちづくりセンターの職員の間でも、福祉を勉強してこなかった自分たちが福祉の相談に関わることに抵抗を感じる職員もいました。社会福祉協議会でも人材を育成し、27 地区に人員を配置することは困難、など様々な意見があり、一部の職員は今でも戸惑いを感じているようです。

昨年からはまった地区の福祉相談窓口へは、引きこもりやニートなど生きづらさを抱えた若者の相談、子育てと介護の問題を抱えている家庭内の複合した問題など寄せられるようになりました。三者が力を合わせ、他機関とも協働・連携し、地区の課題に向き合い、あらゆる世代の方々により良い支援が出来ることを目指し、その積み重ねが包括的な支援に繋がることを期待しています。

地区連携医事業

また、平成 28 年 10 月から地区連携医事業を開始しました。

27 のあんしんすこやかセンターごとに担当の地区連携医を置き、あんしんすこやかセンターが行う様々な活動の場、例えば事例検討や医学知識に関する研修の実施や多職種間のネットワーク構築に向けた企画などで、医療的助言を行うことを通して地区における医療・介護の連携を強化していくものです。医療との連携が苦手な福祉系職員には大変喜ばれている一方で医師のそれぞれの個性や考え方に左右され、地区ご

とに違い（差）が出てきて苦労している地区もあるのが現状です。今後は各地区の取り組みを共有しながら区全体で医療と介護の更なる連携を推進して欲しいと願っています。

今後の期待

三者が連携して、問題を抱えている人を地区から阻害することなく、その人に必要なサービスを使いながら個別の課題解決を通して地区全体の社会資源に目を向け、足りないサービスは作り出し、区民も含めた多職種が協力し合い地区全体の福祉の向上を目指す世田谷区の取り組みに今後期待しています。

また、私自身も地域活動に参加し、沢山の方々と顔見知りになり様々なネットワークをつくり、四季折々の風情がある住み慣れた地域で暮らし続けたいと思っています。

次回は鳥取県の金田弘子さんをお願いすることになっています。

理事会報告

2016 年度 第 2 回 理事会

開催日時：2017 年 5 月 21 日（日） 9：10 ～ 12：00

開催場所：貸し会議室プラザ八重洲北口

苛原会長の挨拶に続き、事務局報告がまず行われ、その後は検討事項も含め理事会が進行されました。

報告・検討事項は以下の通りです。

- 東京事務局報告
- 他団体の後援承諾
- 八戸大会
 - 進行状況報告（場、シンポジウム）
 - 協賛依頼に関する報告
 - 実践交流会のカテゴリー追加
 - 座長、カテゴリー別担当理事の確認
- 役員選任規定について
 - 推薦理事、退任理事についての報告
- 来年度の事業計画
- 全国の集い in 大阪 2018 についての準備状況
- 2019 年の全国大会の開催地について
 - 2019 年全国の集いの開催地は東京に決定
- 出席理事全員によるそれぞれの会への提言

理事会企画

プレ大会報告と予定

次回理事会 8 月 27 日

「第23回 全国の集いinはちのへ 2017 大阪プレ大会」 「だれもが住みやすい地域社会をめざして」

平成29年8月20日10時～12時30分
場所:大阪市東成区民センター 小ホール

主催:医療・介護・保健従事者が元気になる会
共催:大阪地域医療ケア研究会、地域共生ケア生野推進委員会
NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク



①基調講演 小倉 和也 氏

(はちのへファミリークリニック院長)
(NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク理事)
(全国の集いinはちのへ2017 大会長)

②シンポジウム

- (1) 出発のなかまの会(障がい者支援)の活動報告 → 当事者と支援者によるお話
- (2) いちごの会(アルコール依存症の自助組織)の活動を通じた矢田のまちづくり
- (3) FAの会(高齢者支援)の取り組み、地域づくり
- (4) 輪母ネットワーク(障がいのある子供と家族の会)の活動、地域共生への働きかけ

基調講演に、本年開催の「はちのへ大会」の小倉大会長を迎えてのプレ大会です。
多くの方のご参加をお待ちしております。

活動予定

大阪プレ大会
平成29年8月20日
10時～12時30分
場所:大阪市東成区民センター 小ホール

第三回理事会
平成29年8月27日
場所:東京

2017 第23回 全国の集いinはちのへ
平成29年10月8日～9日
場所:八戸市公会堂ほか

第16回 通常総会
平成29年10月9日
場所:八戸市公民館

抄録集掲載の協賛 名刺広告について

現在、御協力頂いておりますがまだまだ応募が少ない状況です。8月中旬まで延長させていただきますので改めてご協力をお願い申し上げます。

お申し込みに際しては当会ホームページの「事務局からのお知らせ」より申し込み用紙をダウンロード頂きご利用ください。また、名古屋事務局へ直接電話頂ければ対応させていただきます。

風の萌

2017年7月20日発行(第038号)

頒 価: 1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-895-1200

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokonet@home-care.ne.jp

〒458-0007 愛知県名古屋市緑区筥山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

全国大会まで残り3ヵ月弱となりました。
次々とプレ大会が開かれ大会に向けて着々と準備が進んでいる様です。

季節が移り変わり夏になって、九州では大雨で大変な被害が出ました。ここ数年、大雨での災害が次々と起こって居る様に感じます。

被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

(東京事務局/犬童)